

終刊記念号

# Create

小木曾照行先生を偲ぶ

## 目次

---

- はじめに 荒川眞仁 1  
小木曾照行先生を偲ぶ 多賀久郎 2  
小木曾照行先生略歴 3  
月刊誌「Create」のあゆみ 4  
創刊号 巻頭言 高橋和三郎 5  
Create 創刊を報じる中日新聞県内版 6  
教育基本法とともに歩む 小木曾照行 7

### 思い出の Create 私の一編

- 戦後学制改革の落とし児の半生 荒川眞仁 11  
秀峰富士山をめぐる 飯田敬一 15  
佐久間記念交流会館（旧、記念館）訪問記 内田富夫 18  
小田木文楽復活の胎動 梅村善孝 21  
句作で甦った戦争末期の少年の記憶 太田泰直 23  
ある高齢者の「<sup>きそうきょく</sup>綺想曲」 大野達郎 25  
文楽の楽しみ 笠井紀世史 28  
再生の到来 金谷鎬二 30  
外から見た日本 小木曾照行 32  
小子内探訪 近藤 篤 34  
「躰」と「環境」・子育て支援 佐藤嘉國 36  
教育ウォッチング 高井龍三 38  
李香蘭と『夜来香』 多賀久郎 39  
キーン先生の手紙から 豊永利英 42  
いもづる式 鳥山 勇 44  
彼岸の彼方の先輩方へ 野中昌介 46  
「生徒指導におけるパラダイムシフト」が求められる 八谷芳樹 48  
フィンランドとイギリスの学校の特徴 山田敏子 50  
芭蕉が訪れた寺一日蓮宗 長久山円頓寺一 渡邊政雄 52  
俳句 30句 渡邊政雄 53  
編集後記 54

## はじめに

荒川 眞仁

平成3年10月、小木曾照行先生と小島俊夫先生の呼びかけによって創設された「高校教育情報学会21」は、高校を中心に県下の教育界にさまざまな情報を提供するとともに、貴重な足跡を残してきました。その活動の中心は、機関紙「Create」の発刊で、21世紀を10年後に控え、創刊以来、月一回発行され、平成25年9月までに226号をかぞえました。

発会の趣旨に、「21世紀を担う子どもたちのため、私たちは、多年にわたる教職経験を生かして実際に指導を担当される先生や保護者とそのOBの方々の意向・提言を生涯学習体系の中で真正面からとらえ、教育改革の推進に努めたいと願っています」とうたわれています。四半世紀近くにわたって、教育のあるべき姿について情報を発信してきました。両先生の思いが結実したものと改めて敬意を表したいと思います。

平成27年3月、小木曾先生のご逝去を機に、高校教育情報学会を閉じてはどうかという声がありました。今回、学会のあゆみを振り返り、小木曾先生への追悼の意を込め、「Create 終刊記念号」を出すことになり、小木曾先生の論文と、現会員の掲載文を一人一点収録することになりました。

次期学習指導要領は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催の2020年から、2030年ころまでの間の子どもたちの学びを支える重要な役割を担うこととなります。2030年の社会の在り方を見すえながら、その先も見通した初等中等教育の在り方や、日本の子どもたちの学びを支えるものとするのが、今回の改訂に課せられた使命といえます。

この機会に、また、ポスト平成を控え、本書がひとつの時代を証言する記録として、愛知の教育の礎となり、指針となって、更に、敬愛する小木曾照行先生を偲ぶよすがとなりますよう心から祈念いたします。

本書の刊行にあたり、関係の皆さまから多大のご支援を賜りました。あつく御礼申し上げます。

## 小木曾照行先生を偲ぶ

多賀 久郎

先生から『ジャパン アズ ナンバーワン』（初版1979）を紹介されたのは先生が旭丘高校に転じ、校長会長の任に着かれたころですね。やがてバブル経済がはじけ、経済指標が下降線にあえぎ、日本が元気を失い出すところにはいち早くクリエイトNo.79でスティーヴン・ナッシュ著・西部邁訳『日本人と武士道』を紹介、先生は混迷日本を打開する観点として、「我が国の文化と伝統、その根底にある道德の核心には武士道が横たわる」と結んでおられます。そして、クリエイトNo.89で『逝きし世の面影』渡辺京二を紹介しておられます。江戸時代が西欧を凌ぐほどの文明と精神性を有したのでないか、とみる幕末や明治に來日した異邦人の日本文明観察記録の集成です。先生の、知への渉獵力に驚きます。先生は一般の総合誌のみならず、『アステイオン』（サントリー文化財団）とか『発言者』西部邁主幹（2018より『表現者』に）等にも目を通しておられます。とうにシュペングラーが西欧近代化の行きつく先を絶望的にとらえていることや、J・トインビーの、世界文明史は日本にも着目して論ずるべきだとの説も、先生はご存知です。クリエイトNo.111で、西部邁『国民の道德』をかなりていねいに紹介して、「明日を迎えるために、ぜひ読みたい本」と結んでおられます。西尾幹二『国民の歴史』と並んで出されたものです。以上は、日本が今後、精神の依って立つ道をどう正すべきかの、先生のご思索の軌跡をクリエイトから拝察したつもりです。西部邁は強い信念をもち、保守憂国の論陣を張り、発言の限りを尽くし、今冬、かねて公言のとおり自ら命を断ちました。今では、それへの先生のお感慨をお尋ねすべくもありません。

先生は中村高校の教育目標に「常に善さを求める」を掲げられました。ソクラテスを踏まえた、先生の根底にある教育哲学のように拝察します。

先生から折節に紹介された書籍やお話は、時代を的確に反映しています。先生は東西の冷戦構造の終焉より15年ほど前に、ソ連邦のペレストロイカ改革を解説くださり、やがて訪れる世界の多極化や民族紛争を予見しておられました。まだ学校紛争の余波で、落ち着きのない学校現場が散見されるころ、先生を身近に囲む談話の中で、先行きに展望を得た日々が思い出されます。

先生は学校群選抜制度へ切り替え後も、既設校・新設校がそれぞれの実を上げており、公立高校は県民からの信頼を得ているということや、愛知の教育にも幅があることを広く世にお示しになりたかったようです。先生を知る多くは先生を学究的な人と見ていますが、先生は研鑽に励む職員を無条件に支援し、職能団体としての教員の組織づくりの必要を説き、日本教育会愛知県支部づくりにご尽力なさいました。ご退職後は愛知の教育改革推進の一助を担いたいという情熱からクリエイトの企画・発行をされ、ご永眠の直前まで発言を続けられました。日ごろ、人の縁を大切にとおっしゃった先生です。分厚いクリエイトファイルを読み返してみると、楽しくも価値の高いご縁をいただけたと胸が熱くなります。もとより、鈍感にして蒙昧な私ごときが鴻鵠の志の神髓をうかがい知るべくはありません。 感謝合掌

平成30年7月末

## 小木曾照行先生略歴

小木曾 照行 (こぎそ てるゆき)

大正15年8月5日～平成27年3月23日

**出身** 岐阜県恵那市上矢作町

**学歴** 大阪外事専門学校ロシア科 (現大阪大学外国語学部ロシア語学科) 卒 (旧制)  
名古屋大学文学部史学科西洋史専攻卒 (旧制)  
名古屋大学文学部大学院 (旧制)

**職歴** 愛知県立瑞陵高等学校教諭  
愛知県教育委員会管理部教職員課管理主事  
同 主任管理主事兼第一係長  
同 人事管理主幹  
愛知県立中村高等学校長  
愛知県立旭丘高等学校長  
愛知県立昭和高等学校長

**団体歴** 愛知県公立高等学校長会 理事  
副会長  
会長  
日本教育会愛知県支部 理事  
常任理事  
参与  
支部長

**表彰等** 愛知県教育表彰 (学校教育功労) 平成6年11月  
勲四等瑞宝章 平成8年秋の叙勲  
愛知県表彰 (教育功労) 平成11年11月  
従五位 平成27年3月

## 月刊紙「Create」のあゆみ（敬称略）

### I 期 創刊準備号から114号まで

☆平成3（1991）年9月 見本版（0号）発行  
発会の趣旨

21世紀を担う子どもたちのため、私たちは、多年にわたる教職経験を生かして 実際  
に指導を担当される先生や保護者とそのOBの方々の意向・提言を生涯学習体系の中  
で真正面からとらえ、教育改革の推進に努めたいと願っています。  
このような願いを込めて、ここに月刊紙Createを発刊します。創刊は平成3年10月  
予定。

執筆者 高橋和三郎ら元県立高校長・教員他

主 幹 小木曾照行 事務局 小島俊夫

☆10月 創刊号発行

☆平成4（1992）年10月 発行部数3,000を越す

☆平成6（1994）年1月 シンポジウム「二十一世紀の教育を語る」開催

シンポジスト 江藤恭二（名大名誉教授・愛知淑徳大教授）加藤昭（元名古屋市立中学校  
長）神野紀郎（豊橋グランドホテル取締役社長）小木曾照行（元県立高校長）渡邊直子（元  
名古屋市立小学校長）

コーディネータ 高橋和三郎（元公立高校長） 森貞雄（元県立高校PTA会長）

於 愛知県教育会館

☆平成6（1994）年4月特集別刊「Symposium 21世紀の教育を語る」を家庭教育情報学会  
21と協同で発行

☆平成7（1995）年11月 クリエイト五十号記念懇談会 於東山会館

☆平成12（2000）年1月 100号発行

☆平成13（2001）年3月 閉刊

### II 期 115号から209号まで（CD版で提供）

☆平成16（2004）年9月 115号発行

会 長 小木曾照行 事務局 小島俊夫 執筆スタッフ26名

☆平成23（2011）年7月休刊

### III 期 210号から226号まで（ホームページ版立ち上げ）

☆平成24（2012）年8月 210号発行 顧問 小木曾照行

事務局：小島俊夫、荒川真仁、太田康直、大野達郎、金谷鎬二、八谷芳樹、豊永利英、  
野中昌介、近藤 篤

☆平成24（2012）年9月20日 Create電子版をアップ、校長会旧会員の会HPにリンク  
平成26（2014）年1月から休刊

II期・III期のCD版、ホームページ版立ち上げには、大橋光雄、高瀬良生らにご協力を  
いただきました。